

和光市史平成版 章立て及び項目立て

章		概要		備考
大項目	中項目(年代)	和光市らしい小項目を設定して、各小項目に掲載する主な事項		
序章 原始・古代から和光市の昭和期				
原始・古代から 和光市誕生まで	原始・古代から近代(終戦)まで	貝塚、遺跡、白子宿、社寺、新倉村、白子村、大和町、鉄道、都市化の進行など既刊の和光市史から主要な事項を抽出して記述する		前回の市史刊行以後に発掘や研究で判明した事実、市民が興味を持っている歴史的事件、今回記録に残さないと忘れられてしまう事柄に焦点をあて、時系列に沿って記していく。
	戦後復興期(昭和22年～昭和31年)	和光高校開校、和光音頭制定、市内循環バス運行開始、坂下公民館開館、広沢・北原小学校、第三中学校開校、老人福祉センター開所、清水かつら「うたの時計台」建立、和光養護学校・和光南養護学校開校、第1回市民まつり開催、市の木「いちよう」市の花「さつき」市民憲章制定、図説「和光市の歴史」刊行、保健センター開所		
	高度成長期(昭和32年～昭和45年)	白子宿・吹上・新倉・牛房コミュニティセンター、総合・下新倉児童センター・本町小学校・南公民館・図書館開所、坂下土地改良事業完成、和光市民歌制定など		
	和光市誕生から昭和の終盤(昭和60年)まで	高度成長期から低成長期へ(昭和45年～昭和55年)		
		行財政改革期(昭和56年～昭和60年)		
第1章 のびゆく和光市の平成期前半				
昭和から平成へ	好景気と地価高騰 市政と市民生活の変化(昭和61年～平成3年)	一人暮らし老人用緊急時通報システム稼働、和光市駅の北口を開設、和光国際高校開校、和光市運動場開所、福祉施設さつき苑開設、地下鉄有楽町線開通、市役所駅連絡所開設、学童保育クラブ開設、英語指導助手事業開始、松ノ木島土地区画整理事業完了、和光樹林公園開園、朝霞警察和光市駅派出所開所、巡回入浴サービス開始、牛房・吹上出張所開所、乳幼児医療費助成制度開始、すわ緑風園開設、農産物直売センター開設、市民農園開設、花ノ木遺跡から「火熨斗」出土		掲載内容の例 1 市民・市政を取り巻く状況(社会情勢、国政・県政の概況、経済状況) 2 人口動態・人口及び世帯構成、商工業の動向 3 市街の概況(例:〇〇地区は、都心への利便性のため、〇〇年頃からワンルームマンションが相次いで建設された) 4 地域住民の持っていた課題と市政(例:高齢化社会の到来に向けて、健康寿命の延伸のため、市はどのような施策を実施し、その効果はどうだったか) 5 市民生活 地域の歴史を知る市民から話を聞き取り、各地域の特色ある話や古い写真から、その特色を描くとともに、現在の地域の姿を後世に残す。市民の生活がどう変わってきたのか? 6 開発に伴う文化財や自然破壊などのマイナス面 7 昔から変わらない和光魂的なもの 8 国際化(古くは新羅郡のあった和光市)など。 その他の資料:集会所等にある自治会の資料などを参考に。
	経済の停滞と少子高齢化社会の到来(平成4年～平成12年)	中央第二谷中土地区画整理事業着手、リサイクル展示場・勤労福祉センター開所、東京外かく環状道路開通、新市庁舎へ移転、市民文化センター開館、市内循環バス運行開始、中学生海外派遣事業開始、司法研修所開所、福祉の里開設、南浄水場完成、長野県佐久市と災害時相互応援協定締結、中央公民館開館、駅南口地下自転車駐車場開設、白子コミセン・新倉北地域センター・農業体験センター開設、丸山台土地区画整理事業完了、埼玉県南西部消防本部発足、清水かつら生誕100年記念碑建立、アメリカワシントン州ロングビュー市と姉妹都市提携、		
第2章 未来を見据えた和光市				
21世紀の和光市	21世紀初頭の和光市(平成13年～平成22年)	ファミリーサポートセンター開設、第三次和光市総合振興計画基本構想策定、野川土地区画整理事業完了、みなみ保育園開所、24年ぶりに新倉橋を再建、南保育クラブ・南児童館開館、学校週5日制開始、しもにいくら保育園開園、朝霞地区4市合併協議が破談、キッズエイド和光保育園開所、公共施設の全面禁煙、越後山土地区画整理事業着手、和光市市民参加条例施行、しらこ保育園開所、新潟県十日町市と災害時応援協定締結、下新倉保育クラブ開所、住居表示がされていない地域の住居表示を実施、総合福祉会館開設、古民家再建(新倉ふるさと民家園)、行政改革集中改革プラン策定、和光市都市計画高度地区の決定、羽田空港行きリムジンバス運行開始、公共施設にAED設置、教育支援センター開所、新倉高齢者福祉センター・南地域センター・総合体育館開所、和光市まちづくり条例施行、成田空港行き高速バス運行開始、和光市協働指針策定、和光理研インキュベーションプラザ開所、和光市駅北口土地区画整理事業着手、新倉交番開設、副都心線開通、市民協働推進センター開所、全国高校総体ハンドボール競技(男子)開催、向山地域センター開所、新和光消防署開所、練馬区と災害時相互応援協定締結、白子三丁目中央・和光北インター地域土地区画整理事業着手、平成15年3月現在人口7万人超		7 昔から変わらない和光魂的なもの 8 国際化(古くは新羅郡のあった和光市)など。 その他の資料:集会所等にある自治会の資料などを参考に。
	和光市の今(平成23年～令和2年度末)	キャラクターのわこうっち、さつきちゃん誕生、和光市議会基本条例施行、板橋区と災害時応援協定締結、第四次和光市総合振興計画基本構想策定、戸田市と災害時応援協定締結、副都心線が横浜中華街まで直通運転開始、健康づくり基本条例施行、午王山遺跡史跡指定特別展開催、東京北部郵便局開局、理研が113番元素「ニホニウム」発見、下新倉小学校・児童館・保育クラブ・図書館分館開設、小学校区ごとに地区社協を設立開始、南浄水場第三配水池稼働、アジアエアガン選手権大会開催(H29.12)、平成27年3月現在人口8万人超		
	そして未来へ	○みんなでつくる快適環境都市わこうを指して(第5次和光市総合振興計画基本構想の将来都市像に基づき変更する) ○学術、研究都市、市内企業の技術を世界へ		

※ 中項目の下位に適宜小項目を置く。

例: 遺跡・遺物、和光市の成り立ち、社会福祉の推進、地域農業の変貌、バブル期の隆盛と崩壊、外かく環状道路の開通、市役所庁舎移転、区画整理事業の推進とまちづくり、市政改革と市民参加、学術・研究都市・市内企業の技術を世界へ、歴代市長と政策、基本構想・まちづくり、行財政改革、公共施設建設、交通網の発展(地下鉄、外環)、文化財・伝統芸能・歴史・考古学・遺跡、福祉施策・障害者施策、高齢者施策、子育て支援、健康づくり、国際化・情報化、コミュニティ活動、地域の特性、環境・緑化政策、産業育成、わこうブランド、ニホニウム、教育改革、災害対策・安心・安全なまちづくり、アメリカロングビュー市と姉妹都市提携・県外他市等との交流など